

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書作成要領

事業実施後は、次の実施報告書を国際交流チームに提出してください。

- 1) 様式2-1 実施報告書（学内版）
- 2) 様式2-2 事業の取組結果
- 3) 様式2-3 事業に係る経費執行結果
- 4) 様式 2-4-J 実施報告書（一般公開：日本語版）
- 5) 様式 2-4-E 実施報告書（一般公開：英語版）

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：大学院生物資源学研究科

事業担当者の職・氏名：教授・中島千晴

内線電話番号：9638

電子メール：chiharu@bio.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

留学生を活かした留学フェアと地域貢献活動

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

特任教員と大学院の留学生を中心に留学フェアを計画し、研究科の紹介と、留学相談などをオンラインで行う。また地域の小学校などへ特任教員を中心に留学生を派遣し、地域の国際化・国際理解活動に貢献する。

(2) 事業の背景・これまでの実績

当初はマレーシア・プトラマレーシア大学、マレーシアトレンガヌ大学、フィリピン・セントラルルソン大学へのサマースクール派遣を計画していたが、コロナ禍のため、派遣が叶わなかった。そこで、特任教員(外国人教員増加策分)と大学院の留学生を中心に国際交流企画を実施することとした。

(3) 事業実施結果

A. 津市内の小学校の「出会い学習(国際交流)」への貢献

津市立香良洲小学校 6 年生 39 名を対象に、特任教員である留学生を派遣し、交流事業を実施する予定であった。しかしながら、蔓延防止措置の発出により、三重大学と香良洲小学校をビデオリンク方式で結んでの交流会となった。交流会は留学生の出身国(ケニア、インドネシア、エジプト)の紹介とともに、小学生との自由な質疑応答を、通訳を介して行った。



B. 留学生によるオンラインオープンキャンパス

インドネシア・マレー語圏の大学を対象に三重大学への留学を促すため、マルチリンガル(英語、マレー語、日本語)でのオンライン留学フェアを企画・実施した。当日は、マレーシア政府が公式には使用しない zoom を利用したが、マレーシアトレンガヌ大学水産・食品科学科 46 名がマレーシアより参加した。教員による簡単な大学概要のプレゼンテーションのあと、現在ある日本語の研究科紹介ビデオと

は異なり、事前に撮影した留学生による留学生視点でのキャンパスツアー動画、周辺地域の案内、宗教施設、ハラールフードなどの購入場所の紹介動画、研究生活の動画を配信し紹介した。また、マレーシアの多様性を反映した英語、マレーシア語、日本語、中国語等多言語での質疑応答を実施し、活発な質疑応答となった。





Zoom meeting
Open campus for UMT Students & Faculties
Graduate School of Bioresources
Mie University

DATE & Time: 21 February 2022
 10:00 - 12:00 (Japan)
 9:00 - 11:00 (Malaysia)

Virtual campus tours – video streaming
 Introduction of Life in Mie U – live streaming
 consultation room in Multilingual (Malaysia/English/Chinese/Japanese)

<https://us02web.zoom.us/j/84827151866?pwd=YjRrek4xTk9PdZlNXNhbzB1WmpYQT09>




C. フィリピン・セントラルルソン大学の教員を対象とした大学紹介と生物資源に関するワークショップ

近年留学生が増加し交流が活発となっているフィリピン・セントラルルソン大学の教員を対象に大学と研究室ツアー、生物資源の取得方法と操作、病害の診断に関するオンラインワークショップを、複数のカメラによる手技の動画の配信やサンプルの顕微鏡画像などを用いて実施した。セントラルルソン大から教務担当副学長を始め、30名の参加を得た。

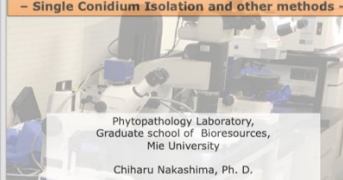
BaCaDM-SATREPS workshop series

- Isolation of phytopathogenic fungi
- Short Visit to Phytopathology Lab., Mie University

Slide materials in this workshop include unpublished techniques & Tips. Based on NDA-BaCaDM, it should be treated as is.

Acknowledgement
 This workshop is partially supported by Mie University.

Isolation Methods for Plant Pathogenic fungi
 – Single Conidium Isolation and other methods –



Phytopathology Laboratory,
 Graduate school of Bioresources,
 Mie University

Chiharu Nakashima, Ph. D.
 Assistant: Ms. Rosslyn Uy

(4) 事業の意義

A. 出会い学習について：比較的年齢が高く家族を帯同し、子弟が小学校に通う留学生に参加してもらった。そのため、普段感じている日本の小学校に対する疑問や困っていることを素直に話しする事ができた。このことで、留学生が普段抱えている不安感を多少和らげ、自らが地域に貢献したいという意欲に応えることができた。また、小学校からは、外国を知ることでイメージ、見方を変える。同級生の中にいる外国にルーツを持つ児童の気持ちや、困っていることがあるのだということを理解できた等、好評であった。

B. オープンキャンパスについて：自らが所属する大学の生活を紹介したいという留学生の意欲に応えることができた。また教員が企画するオープンキャンパスでは学務関係の説明が行われたりと、情報の伝達が中心となり、学生が聞きたいことが聞けない状況になる。本企画では学生自らが考える見せたい、知りたい情報を動画にて紹介することで海外からの参加学生によく伝わったものと思われる。また、留学のきっかけや今後の進路など自らを見直す良い機会となったと思われる。

C. オンラインワークショップについて：三重大学大学院生物資源学研究科の研究室の現状などを配信した。これにより、受け入れた学生が携わる共同研究について、また生物資源の保管や取り扱いについて理解を深めてもらう事で、生物多様性条約に基づいた対応を三重大学が十分に担保していることが理解された。これにより、困難とされるフィリピンにおける生物資源を用いた国際共同研究の一層の推進が図られるとともに、優秀な学生の受け入れが叶うであろう。

(5) 事業の発展性

いずれのプログラムも相手側より、継続的な協力、開催を求められており、今後も研究科の活動として継続する可能性がある。また、いずれの事業も留学生を積極的に参加させることで、コロナ禍で孤立しがちな留学生の再度のグループ化、問題の共有化が行われ、また、留学の目的の再確認などが行われ、終了時には非常に充実した表情を見せたことが印象的であった。このように三重大学の情報発信の他に、留学生の厚生面からも望ましい活動となった。

また、オープンキャンパス、ワークショップの活動は、留学生の増加、研究活動の活発化に寄与すると思われる。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

(該当の中期目標・中期計画を記載願います。複数の項目に該当する場合は列記してください。)

I, 1,(1) 2, 4

2, (2) ②, 1

4. (1) ①2 & 3, ②1, ③1

(7) その他

令和 3 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

留学生を活かした留学フェアと地域貢献活動

生物資源学研究科はアジア、アフリカ、太平洋地域を中心に多くの留学生を迎えています。コロナ禍で多くの学生の来日が実現しない中、以下の様な企画を計画し、地域や大学の国際化に貢献しています。

津市立香良洲小学校 6 年生の児童と、三重大学の特任教員としても活躍する留学生のオンライン交流会を行いました。児童からの質問に答えるだけでなく、留学生も自らの子供が津市内の小学校に通っていることから、心配なことを伝えるなど様々な意見を交換する事ができました。

特に最近、交流が盛んなマレーシアトレンガヌ大学と留学生の企画によるオンラインオープンキャンパスを企画・実行しました。マレーシアの多様性を背景にマルチリンガル(英語、マレー語、日本語)で実施されました。マレーシアトレンガヌ大学水産・食品科学科から 46 名が参加し、教員による簡単な大学概要のプレゼンテーションのあと、事前に撮影・編集した留学生による留学生視点でのキャンパスツアー動画、周辺地域の案内、宗教施設、ハラールフードなどの購入場所の紹介動画、研究生活動画がストリーミング配信されました。質疑応答では活発な質疑応答が行われました。このように、留学生の力を活かした事業としてはフィリピンセントラルルソン大学との研究交流事業も実施されています。

令和 3 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

We accept international students from various countries, mainly from Asia, Africa, and the Pacific areas. Under the COVID-19 disaster, intercultural activities between students and citizens have been challenging. Therefore, we planned and carried out the following programs with our international students.

1. Intercultural program with students studying at Karasu Elementary school.
2. Online open campus for Universiti Malaysia Terengganu in the multi-lingual situation.
3. Laboratory Visit and Online Workshop on the Biological resource for Central Luzon State University.